

令和元年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会 議	名称	第1回 重心・要医療的ケア部会	参 加 者 数	43 人	会 場	伊那市福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	令和元年 6月 25日 (火) 13:30 ~ 15:00				
主 題 マ	<p>1 今年度の活動計画に関して</p> <p>2 現状報告(各事業所等の受入れ状況等)</p> <p>3 その他</p>					
<p>1. 開会</p> <p>2. 部会長挨拶(大萱の里・堀川施設長)</p> <p style="padding-left: 20px;">忙しいところ、また暑い中ありがとうございます。今年度も宜しくお願いします。</p> <p>3. 議題</p> <p>(1)今年度の活動計画について</p> <p>ア 上伊那圏域の医療的ケア児等コーディネーターの紹介と今後に関して</p> <p>○6/7第一回医療的ケア児等コーディネーター連絡会を行ない、上伊那圏域で医療的ケア児等コーディネーターの研修を昨年度受講された方に集まって頂いた(当日は9名参加)。それぞれの事業所の話聞きながら、「研修は受けたが何をどんな方法でやっていったらいいのか?」という意見もあった。医療的ケアを要する児童を受け入れてくれる施設が少ない、あったとしても枠が少ないということで広がりが少ないという意見が出された。</p> <p>●コーディネーター研修を修了した方の紹介…圏域内で10名</p> <p>《部会出席者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那市子ども相談室 町田様 ・南箕輪村子育て教育支援相談室 泉様、田中様、見上様 ・南箕輪村療育施設『たけのこ園』 清水様 ・『きらりあ』 志賀相談支援専門員 <p>《部会欠席者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放デイ『しろくま』 武井様 ・斎藤診療所 遠藤様 ・上伊那生協Hp 木下様 ・平成会 河手様 <p>・部会とは別に、連絡会として情報交換を行なう予定。会議後には報告をしていく。</p> <p>“コーディネーター研修を受講して、現状を知りたい。”</p> <p>・『伊那市子ども相談室』・町田様より</p> <p style="padding-left: 20px;">研修以降、病院から「コーディネーターに…」という連絡を受けたことはない。職種の認知を市町村、事業所、医療機関等に知ってもらうことが大事だと感じている。また相談支援専門員、保健師、ケースワーカー、看護師等の役割分担が地域によって異なっているという印象を受けている。様々な情報を集めていながら、どういう形でこのコーディネーターが仕事ができたらいい連携が取れるか、と考えているところ。</p> <p>・『南箕輪村子育て教育支援相談室』・田中子育て教育支援相談員より</p> <p style="padding-left: 20px;">まだ医療機関等から直接的に連絡を受けたことはない。ただ今までに計画相談を担当した方の中で医療的ケアが必要な方がいるので、事業所や関係機関と連携を取りながら対応している。“地域の中でどういう支援を”と考える時、学校にもコーディネーターがいるし、また地域には保健師がいるので、連携を取りながら活動をしていけばいいかと模索している最中。</p> <p>○堀川会長より</p> <p style="padding-left: 20px;">まだコーディネーターとしての認知が十分になされていないということもあり直接の依頼や相談はないとのことで、これまで関わってきた計画相談等の活動を進めているとのこと。また、動きがあったら報告をお願いしたい。</p> <p>イ 医療機関や福祉事務所への重心児者の受入れ拡大について</p> <p>○平成30年度活動報告及び令和元年度活動計画(資料参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入先の拡大…特に病院訪問を実施。また民間病院に向いて、院長に直接話をさせて頂く。 →前沢医院より問い合わせあり(進捗状況は改めて報告) ・老健による重心者の受入れについて … 『はびろの里(伊那市)』、『フラワーハイツ(駒ヶ根市)』が対応。 今年度は圏域の老健連絡会に出ながら2事業所の活動を紹介しながら依頼をしたい。 また入院設備を持っている土屋病院を訪問したいと考えている。 ・引き続き、受け入れてくれている事業所訪問を実施。 ・当事者と家族の生の声を聞く為、伊那養護学校『つくしグループ』との懇談会に参加(詳細は次項にて説明)。 家族と出身市町村との懇談を実施することにより、家族から出た悩みや要望等をどう具体的に実現していくかを検討。 ・講演、研修会の開催。また参考となる事業所への視察の実施 → 報告会を開催。 						

●『はびろの里』の利用状況(事務局より報告)

- ・現在、1回/週のペースで2名が定期的に利用している。
- ・実際に申込みは多いが、職員体制等を考慮すると今後受入の拡大は厳しいとのこと。
- ・受入状況として、養護学校の実習体験を通して、お互いに理解し合えた上で検討していきたいとのことであった。
- ・医療的ショートステイを受け入れて2年が経過するが、サービスの質の向上を考えていきたい。既成概念に囚われず“何がその方にとって一番いいのか？”を考えて、利用してもらえらる形にしたいとのこと。

●堀川会長より

老健施設を視察した際、多くの高齢者の中に若い重心の方がいるのに最初は違和感を覚えたが、Dr.、Ns.、リハビリスタッフ…等＝資源が揃っているとも感じた。病院と短期間ではあるものの生活、両面のケアを機能を持っているところであり、今後より一層老健に受け入れてもらえれば…。

ウ 伊那養護学校『つくしグループ』との懇談会に関して(伊那養護学校より配布された資料1, 2, 3 参照)

- ・今年度も『つくしグループ』との懇談会を開催(10:40～12:00予定)。
- ・それに先立って、9:30～ つくしグループ授業授業、10:00～ 各市町村別に懇談会を開催。多くの方の参加を。
- ・自分たちの考えを伝えることができる機会として、分岐点となると考えている。
- ・災害時、様々な理由で避難所に移動することが難しい子どももいる。情報共有や物資の受け取り等、まだまだ検討しなくてはならない課題が多々あると感じている。

●堀川会長より

ここ数年参加させてもらっているが日頃の様子も分かるし、詳細まで分からない部分もあるが生活全般で保護者が夜も寝ずにずっと対応している様子も分かった。懇談会時に様々な率直な意見が出され、「何とかしなくては…」と身近に感じている。

エ 災害時の対応に関して

- ・災害発生時、避難場所またはみんなが集まる場所に行けない、という話は毎回出てくる。自立支援協議会内の各部会でも災害に関しては話題として出てきている。各部会の意見を集約して運営委員会で各市町村に繋げて、具体的に福祉避難所の整備に結びつけて頂ければいいと考えている。
- ・在宅避難に関しても、家で十分な支援を受けられているという状況はないと思われるので、“災害が発生してもすぐには動くことができない”という現実を各市町村に知ってもらい、こちらも運営委員会から改善に向けて繋げていきたい。

オ 難病について

○2年前、難病を抱えている方の困りごとについて、何処の部会で対応するのか課題になった。

圏域に住む難病を抱えている当事者の方々に生活上でどういうところで困っているのか、等を実際に話を聞くところまで行なった。

県でも難病の方に対して対応をしているとのことでバラバラでやってもいけないので、まずは県の取組み等を知る為に話を聞かせてほしい。

○伊那保健福祉事務所・小野様より

県の取組みというよりも、保健福祉事務所対応していることを説明したい。

①患者に対するの医療費助成(国の制度として)

- ・難病法に基づく…331疾患
- ・難病疾患治療研究事業等…4疾患
- ・長野県が単独で行なっているもの…2疾患
- ・先天性血液凝固因子障害等の研究事業…12疾患
→申請、受付を行なっている。

②難病医療相談の受付

- ・相談を受けたら保健師が対応。

③患者会支援

- ・患者会は自助グループになるので主催することはないが、会場の提供や立ち上げ時に支援することがある。

④患者間の交流支援

- ・患者会より希望があれば共催、また主催することもある。

⑤難病連(県)に委託をして実施しているブロック交流会

- ・10/19…上伊那圏域対象
- ・10/26…網膜色素変性症の患者会より要請があり交流会を共催。

⑥ALSを中心に神経難病の状況把握と調査

⑦支援者に対する研修会の開催

- ・県が主催するものもあれば、保健所単位で行なうものもある。

●質疑応答

- ・患者会に関して、「患者自身が主体になって自主的に行なっているもの」という捉えでいいのか？

→基本的には自助グループなので患者自身が集まったり、また支援者が集まっているものもある。また地域ごとや全国的に行なっているもの、疾患によっても様々で疾患別で組織されているものもあれば、疾患を問わないものもある。上伊那圏域でも幾つかある。

- ・上伊那圏域に何人の患者がいるのか？

→どのような形で数えるのかで数値が違ってくるが、『医療費申請されている方』という限定であれば数字を出すことができる。ただし同じ疾患でも重症度等で認定される方とされない方がいるので、全員の把握はできていない。助成の認定をされている方は30年度で1,119名いる。

- ・患者会に関しての情報は保健福祉事務所教えてもらえるのか？

→所で把握しているものに関しては情報提供が可能。把握していないものは不可能。また全県的なものについては、了承を得ている会はホームページに掲載しているので確認を。

- ・状況を提供して頂いたの、連携を取っていけるところはお互いに協力していきたい。

(2)その他 困りごと等あれば、何でも意見として出して下さい。

Q:医療的ケアを必要とする方の数の把握という事だが、調査して次にどうするのか？

【伊那保健福祉事務所・鳥羽係長より】

これまで県では重心・医療的ケアを必要とする方々の数の全体把握をしっかりと行なわれていなかった。今年度調査を実施することで各市町村に依頼。そもそも“医療的ケア”という形で調査が行われておらず、県と信州大学で共同で実施する。調査は各教育委員会、担当課、障がい課等が持っている情報をまとめて報告という形をとる。7月末までに保健福祉事務所へ提出。そこから県障がい支援課へ。結果に関しては、各市町村で管理という形になると思われる。

【堀川会長より】

圏域の病院等に受入拡大を依頼していく中でこれまでも人数を掲げていたが、平成23年頃のものを使用していた。圏域内で90名程該当者がいて、そのうち30名が医療的ケアを要するとしていた。年数が経過しているのも、新たな数字が出されることは大切だし、今後はそれを基に活動していければ…。

◎関係機関から、重心の方々の受入れ状況等を報告。

●『昭和伊南総合病院』

- ・常勤の鈴木Dr.がいるが、受入という形で公表できるものはない。受診時に個別相談という形を取っている。
→相談数は結構あるのか？
→診察の中で対応しているが、ショートステイという形で利用している方が1名いる。

●『上伊那生協病院』

- ・各窓口で対応しているので全体数は分からない。訪問リハで巡回している方がショートステイを利用することがある。

●『伊那中央病院』

- ・何かあれば声を掛けて頂きたい。

●『辰野病院』

- ・定期的に週3名、伊那養護学校のつくしグループの実習を通した方や小学生を、その他に不定期で成人1名を受け入れている。昨年度は諏訪圏域より1名新規相談があった。週3名を空床型で受け入れているので新規は厳しい状況だが、相談して頂ければ検討したい。
また、急なショートステイ利用がいつも課題として挙がっているが、小児科の常勤Dr.はいるが病棟がない為、急に利用したことがない方がいきなり日中等で利用したいと言われても厳しい。定期的に利用されている方であれば、早いうちから相談して頂けたらありがたいと思う。
・辰野病院に質問…重心の方の過ごし方を教えてほしい。
→小学部に通われている方は入浴がメインで3時間程度の利用。バイタルチェック後に入浴をし、胃瘻の注入をすると時間いっぱいになる。定期的なリハビリ介入はできないが、手の空いたスタッフがポジショニングを見てくれたり、看護師がマンツーマンで対応するので、Dr.から教えて頂いた体操等をしている。長期休暇になると長時間利用の希望が出るので散歩に行く等して対応している。20歳を超えた方は車椅子に乗れる方は院内レクに参加したり、ポジショニングを見られている。その方に応じて対応をしたいが、リハビリがプログラムに入っていない為、今後質をどうしていくかが課題だが、現実ではそこまで手が回らない。

●『アンサンブル伊那』

- ・現在、3名を受け入れている(GH在住)。火曜日から土曜日、9:00～16:00利用。ほぼ毎日通所されている。今年2月に特殊浴槽の設備を作り、生活介護の活動内で火～金曜日に入浴をしている。希望があればということで『つくしグループ』にも声を掛け、定期的に土曜日に1名、他数名は相談に応じて対応している。スタッフの人員、時間等の問題があるので、15:30以降は1名受け入れている(どんなに頑張っても2名が限界)。
入浴専門のスタッフを配置することはできないが、他の施設で生活介護をやっている希望があれば午前中設備を利用可能(実費にはなるが)、また生活介護の活動内で午前中に来てもらうことも可能(土曜日は受入困難)。

●『わが家のわ』

- ・医療的ケアを要さない方を4名受入れ(2名は『つくしグループ』)。入浴に関しては支援会議等で“一番気持ちよく入浴してもらうには？”を検討しながら、現在は1名対応。今後、特浴可能な事業所を準備中。
“その方にとって”という視点で、ケアを中心に楽しみや地域のことに参加したり、小さな喜び、大きな喜びを共有していけるとところが宅幼所の役割だと考えている。介入しながら繋いでいければと思う。

●『長野県西駒郷』

- ・異動してまだ日が経っていないので分かる範囲で話したい。西駒郷は知的障がい者の入所受入れがベース。現状では重心の利用者はいない。しかし将来可能性があると感じている方は数名いる。
・相談は入所、ショートステイ両方ともにたくさんあるが、職員の介護度の高い方の受入れは厳しいのが現実。

●『若草園』

- ・未就学の子どもを受入れている。昨年度、重心の方の利用希望があったが、体制等を理由に受入れていない。

●『たけのこ園』

- ・小学校就学前の子どもを対象にしている。随時、相談は受けている。

●『きらめき』

- ・B型事業所で生活介護はやっていない。

●『南箕輪村手をつなぐ育成会』

- ・毎回思っていることだが、医療的ケアの子たちの受入先が少しずつ変わってきていると思うが、行政の足取りが遅く、南箕輪村でも『ひまわりの家』の方に施設らしきものを作ったが、事業に携わる人材がないという理由で受入れができないとのことで、施設を作ったらそれなりのケアをしてほしい。できたからいいということではなく、後々のことまで考えてほしい(『たけのこ園』もそうだが…)。

- 『伊那養護学校』…保護者
 - ・年長の時だけは利用したいと要望を出し『たけのこ園』を利用。いい支援をしてもらった。現在、高校3年生になり、就活に入っている。昨年の市町村懇談で医療的ケアがあるB型事業所を利用させてほしいとお願いをし、『ひまわりの家』で2週間実習を行なった。
 - 現在、実習をしながら“1週間でどう過ごすのか？”を検討しているが、生活介護の事業所が定員いっぱい空いている曜日に組み込むのが大変な状況。行きたい事業所も人材不足を理由に実習の受入れができないとのこと。できれば入浴ができ、作業(生活)ができれば…と考えているが現実には厳しい。実習先を増やしていかなくてはいけないので、先生や相談支援専門員にも考えてもらっている。
 - 上伊那圏域は人材不足。その為に生活介護の場所が困っているので、何とか増やして頂ける様な対応をしてほしい。
- 『諏訪養護学校』
 - ・諏訪養護学校にも上伊那圏域から多くの方が来ている。信濃医療福祉センターに入所している方が殆どだが、保護者から「卒業後、重度であったり、車椅子がない生活できない」という意見が多く出ている。実際に事業所に看護師がいない、車椅子での移動が厳しいという場所が多く悩んでいる。都度施設見学をしているが受入れができる場所、看護師が常駐している施設がもっとあったら、という保護者からの強い意見があるので、教諭や職員の方でも声を挙げてほしいという話をいつもしている。
- 伊那市
 - ・重心の方の為に施設が少ないということは感じている。伊那養護学校の懇談会に参加させて頂くので、そこでも意見を聞かせて頂ければと思う。
- 駒ヶ根市子ども課
 - ・個々のケース会議に出席させて頂く中で災害の話題が出てきた時に「市町村で何とかしてほしい(発電機等)」という意見がよく出る。実際に個々で動いていくのは難しいと考えている。市町村だけでなく広域でどうしたらいいのか？、先進事例も知りたいし、実際に市町村の中ではどう統制を取っていくのか、連携を取っていく役割を一体誰がやっていくのか等が課題となってくる。コーディネーターの学習もしつつ、少しずつでもみんなで考えていけたらと思う。市町村ばかりでなく、広域にも力を貸してほしい。
- 南箕輪村
 - ・4月に異動してきたばかり。いろいろと要望はあるがなかなか進んでいけない現状は聞いている。7月に養護学校との懇談会があるが貴重な機会なので、何人かで参加させて頂いて少しでも進んでいけたらと思う。
- 飯島町
 - ・4月から異動してきた。様々な会議に出て、徐々に現状や課題を把握する事ができつつある。今後も勉強しながら考えていきたいと思う。
- 辰野町保健福祉課
 - ・サービスを使いたくても使えないケースが結構あり、役場でできることって考えると難しいと思っている。災害に関して、要支援者の家を把握し、いろいろな部署で連携を取っていければと感じた。
- 最後に堀川会長より
 - ・今日はありがとうございました。これからも積極的な意見交換ができる様な会にしていきたい。

まとめ

- ・今年度活動計画及び昨年度活動報告に関しては了承されている。
- ・急遽、各事業所等の実情に関して等報告があり、現状の情報共有をしている。

次回

- ・7/2 10:40～12:00 伊那養護学校寄宿舎『ひまわりルーム』にて(懇談会参加)